

保育計画成果報告書

法 人 名 等	社会福祉法人 天竜厚生会
施 設 名 称	幼保連携型認定こども園 子育てセンターにじいろ
報 告 者 (役 職)	山本 千栄子 (施設長)
住 所 ・ 連 絡 先	静岡県袋井市上田町 267-31
	TEL 0538-67-8822
	E-mail nijiiro@tenryu-kohseikai.or.jp

○タイトル (保育計画)

にじいろの子どもたちの心と体を健やかにいそいそ豊かに

○主な助成備品

絵本・ウッドフェンス



1. 保育計画策定の目的

令和4年4月に幼保連携型認定こども園として開園しました。子育てセンターにじいろの定員280名に地域支援センターや児童発達支援事業所(10名定員)を併設しており、園児の他、支援の必要な子や地域の方等、様々な方がにじいろに通ってきています。乳幼児に関わる子どもたちが様々な区分で分けられることなく、この園に通うことができるセンター的な役割を持っています。ここに通ってくる子どもたちや職員、保護者や地域の方の日々の営みが安心して落ち着いた環境の中で連綿と繋がっていくことを一番に考え、園庭や保育室をエリア毎に整備し、乳児の0,1歳園庭、2,3歳児の園庭、4,5歳児の園庭として広い園庭が整備し落ち着いた活動ができるように工夫しました。しかし、園児数が多いことに加え、園舎をエリア毎に分けられているため十分な量の絵本を揃える必要がありました。また、園庭整備についても広い園庭はあっても園児が多いため仕切りをして安全な環境の整備が必須でした。この度、貴財団の『子どもの未来を応援する保育所等助成事業』に採択され、これから未来を担う子どものためにまずは絵本を充足させていただき子どもたちの心の安定を図っていくこと、さらに広いにじいろの園庭を安全に配慮し、大勢の子供たちが自分の遊びたい遊びを選んで十分に関わることができるよう設備を整え魅力ある園庭を作り、この地域にとってにじいろのこども園が地域の子が集う場として発信していくことを目的としました。

2. 具体的な実施内容

園内には3か所の絵本コーナーがあります。

年齢別のエリアに分かれオープンスペースを活用して絵本コーナーが設けられております。初年度には十分な絵本が用意できませんでしたが、今回350冊の絵本を購入し年齢別に絵本を配置いたしました。

0,1歳児コーナー（ほわほわ）の取り組み

子どもたちが自由に手に取れる場所に絵本がそろい、興味深く絵本をのぞき込み、手を伸ばし絵本をめくっています。

子どもの年齢にあった絵本がそろったことで、読み聞かせを楽しむことができました。小さい年齢の時期から絵本を大切に扱うことも伝えています。



2,3歳児コーナー（ふむふむ）の取り組み

子どもたちの月齢にあった絵本がそろったことで、子どもたちが自ら読みたい絵本を手に取り、読める環境が整いました。また、意識的に絵本タイムを設けたことで、絵本に親しみ、子どもたちに人気の絵本を夢中になって読んでいる姿が見られました。

この年齢になると物語絵本を好み、子どもから何回も「読んで」と催促されるようになり、個々にまたは、集団での読み聞かせを行いました。



4,5歳児コーナー（こっこつ）の取り組み

子どもたちに興味関心のある『ちいさな生き物ずかん』や『動物ずかん』などを飼育コーナーに置いたことで同じ虫を探したり、見比べたりする姿があり、どの子も興味津々で見っていました。

子どもたちの手に取れる身近な環境に絵本コーナーを設定し、物語や図鑑など様々なジャンルを子どもたちが自分で選び手に取り、楽しそうに読む姿がありました。

購入していただいた絵本の中の『でこちゃん』という絵本を気に入って人気の絵本をみんなで見つかり、楽しそうに読む姿が見られました。



3. 保護者や地域の方による絵本の読み聞かせ

開園したばかりは、園行事や園の運営等まだまだ整わない状態でした。そのような中、保護者からの満足度調査アンケートから読み聞かせボランティアをやりたいという要望があり、それをきっかけに、読み聞かせボランティアを募集したところ沢山の保護者から参加希望があり継続的に実施することとなりました。

読み聞かせの当日は、いつもの担任による読み聞かせと違い保護者や地域の方が読み聞かせに来たくれたことで子どもたちは新鮮に絵本の読み聞かせを楽しむことができました。



4. 園庭の使い方〈ウッドフェンス〉

にじいろの園庭は、2,624 m²と広大です。広々とした園庭は、子どもたちが伸び伸びと使うことができる園庭となっておりますが、園児数が280人と大勢いるため、ボール遊びや集団あそびを小さい子から大きい子までが入り乱れて遊んでいる状況でいつ衝突してもおかしくない危険な状況にありました。今回ウッドフェンスを助成していただいた事で小さい子も大きい子も安全に安心して楽しく遊べる環境を作り、広い園庭を仕切って周囲の子どもや職員に対し、見た目でも安心安全な範囲がわかる環境を作りました。

ウッド調のフェンスは見た目にも雰囲気がよく、園庭の遊びごとにコーナー（集団遊び・縄跳び・こま回し・泥だんご・砂遊び）など様々なコーナーごとに分けることとしました。コーナーごと分けることで園児を安心して把握することができることは、多忙な職員にとっても有効な手段となりました。子どもにとっても職員にとっても、保護者にとっても地域にとっても雰囲気の良いフェンスがあることは、安心で安全な環境をつくり、これからの未来を担う子どもを育て魅力ある園づくりの一役となりました。



5. 成果と評価

子どもたちの生活の場に合わせ、絵本コーナーを設置したことで子どもたちが落ち着いて遊ぶ姿が見られました。年齢や季節に合った絵本を用意し、子どもたちの目線に合わせ環境を整えていくことで興味関心を持ってもらえる姿が見られました。安心できる身近な大人に絵本を繰り返し読んでもらうことでこどもの心の安定を図り、心の成長を育みます。絵本を見ることで、様々な事象に興味関心を持ち、驚いたり、喜んだり、悲しんだり、ほっとしたりする体験を沢山して感性や想像力を育みます。年齢にあった絵本を沢山読んでもらうことで読解力が養われ、判断力や思考力にもつながります。スタートブックの乳児の絵本から、何にでも興味関心を示し質問をしたがる2,3歳児、そして周りのことに挑戦し冒険したい気持ちの育つ年中、年長にあった絵本を用意することで子どもたちが好きな絵本を選んで見れる環境が整ってまいりました。

また、広い園庭にウッドフェンスを置いたことで、視覚的に誰もがわかるエリアとなり、活動的な遊びや集団遊びエリアをコーナーで仕切り、落ち着いて遊ぶ事ができるようになりました。

6. 今後の課題と展望

にじいろに通ってくる時期は、乳幼児期であり人の育ちの基礎となり人間形成に大きく影響していきます。ここで生活する子どもたちに良質な環境を整えていくことが子どもたちの生きる力を培いその可能性を伸ばしていくことに大きくつながっていくと考えています。

それは、人と関わることや人との会話やしぐさ等でのコミュニケーションを身に着けていくこと、自然と関わることで好奇心や意欲を持ち、話す・聴く・読む・書くことの土台作り、自らの身体で表現する事、絵画や造形など創って表現する等この園で過ごす乳幼児期を彩り豊かに過ごすことで、これから生き抜く力となります。子どもたちの生活と遊びの環境について今後も職員一同研鑽してまいります。子どもたちが、明日も生き生きと園に通い絵本の世界に興味関心を持ちそこから広がる絵本の世界や人と人との関わりを力にして未来へと意欲的に飛躍してほしいと願っています。

以上

